

細胞診セルフアセスメント 第2版

坂本穆彦, 古田則行(編)

東京都がん検診センター細胞検査士養成所・教務主任

庄野幸恵

問題を解くことで自身の判断能力が 一目瞭然にわかる

2020年6月、『細胞診セルフアセスメント 第2版』が発刊されました。細胞診検査にかかわる誰もが手にしたであろう『細胞診を学ぶ人のために』(医学書院)(通称「学ぶ君」)の姉妹編であり、こちらを参考書とするならば、本書は細胞を判定する能力を自己評価できる実践的な意味を持つ一冊といえます。

今回、本書はいくつもの改訂がなされています。最初に、部門ごとに色分けされたカラフルな目次とテーマ別に番号と色分けされた中扉が目を引きまします。全11項目の中扉をめくると、親しみやすさとともに本題である細胞像問題への期待が高まり、すぐに問題に挑戦したくなるのではないのでしょうか。

細胞像問題は、全て新しい症例に入れ替えられ、婦人科、呼吸器、消化器、泌尿器・尿、乳腺、甲状腺、リンパ節、体腔液・胸腹壁、骨軟部、脳・中枢神経、皮膚・その他に分類され、321症例と大幅に増えています。左側に細胞写真が弱拡大と強拡大で示され、右側に解答があるので画像と解説を照らし合わせながら確認していくことができるので視覚的にも覚えやすいですし、推定診断名や設問内容が最新のものに更新されているため、時代に合った新しい知識を習得できます。解答には、全てに「ポイント」が記載され、症例によって「臨床事項」「組織所見」「鑑別診断」「細胞所見」などが付記されており、端的で明確な説明文は非常にわかりやすいです。

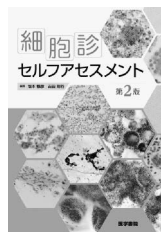
最も重要な細胞写真は、がん研有明病院の症例を用い、同一装置で撮影された写真のため、撮影条件が統一されており美しい一言です。書籍中

の限られたスペースの写真でも細胞所見を十分に観察できる写真です。また、各問題に難易度が示され難易度の低い順に★, ★★, 希少例や難易度の高い問題は★★★と3段階に表示されているので、問題を解きながら自身の判定能力が一目瞭然にわかります。間違った問題を繰り返し解き、写真と解説を読むことで理解を深め、ステップアップしていくことを実感できます。

学科問題は、細胞検査士認定試験に即した出題様式に改訂され、各分野から五者択一と一択問題を組み合わせた形で合計120問が出題されています。解説は、誤っている個所に絞った構成で詳細な説明が記され、問題を解きながら知識を習得できるようになっています。

巻末の索引はシンプルですが、分野ごとに調べることができ知りたい疾患名または診断名について書かれている解答ページへと導かれるため、参照が容易で気に入っています。

本書は坂本穆彦先生、古田則行先生の細胞診へのこだわりを随所に感じます。細胞検査士をめざす人達はもちろん、中堅・ベテランの細胞検査士の方々におかれましても、常に傍らに置いていただき、活用できる「頼りになる一冊」だと確信しています。



●B5/頁 320/2020 年
定価：本体 7,500 円 + 税
[ISBN978-4-260-04196-6]
医学書院 刊